

住戸Hの内観。全住戸に続くトップライトから光が落ち、空をのぞむ。

全体を東側より見る。生活感がへこみから溢れ出し、都市と建築と人につながる。

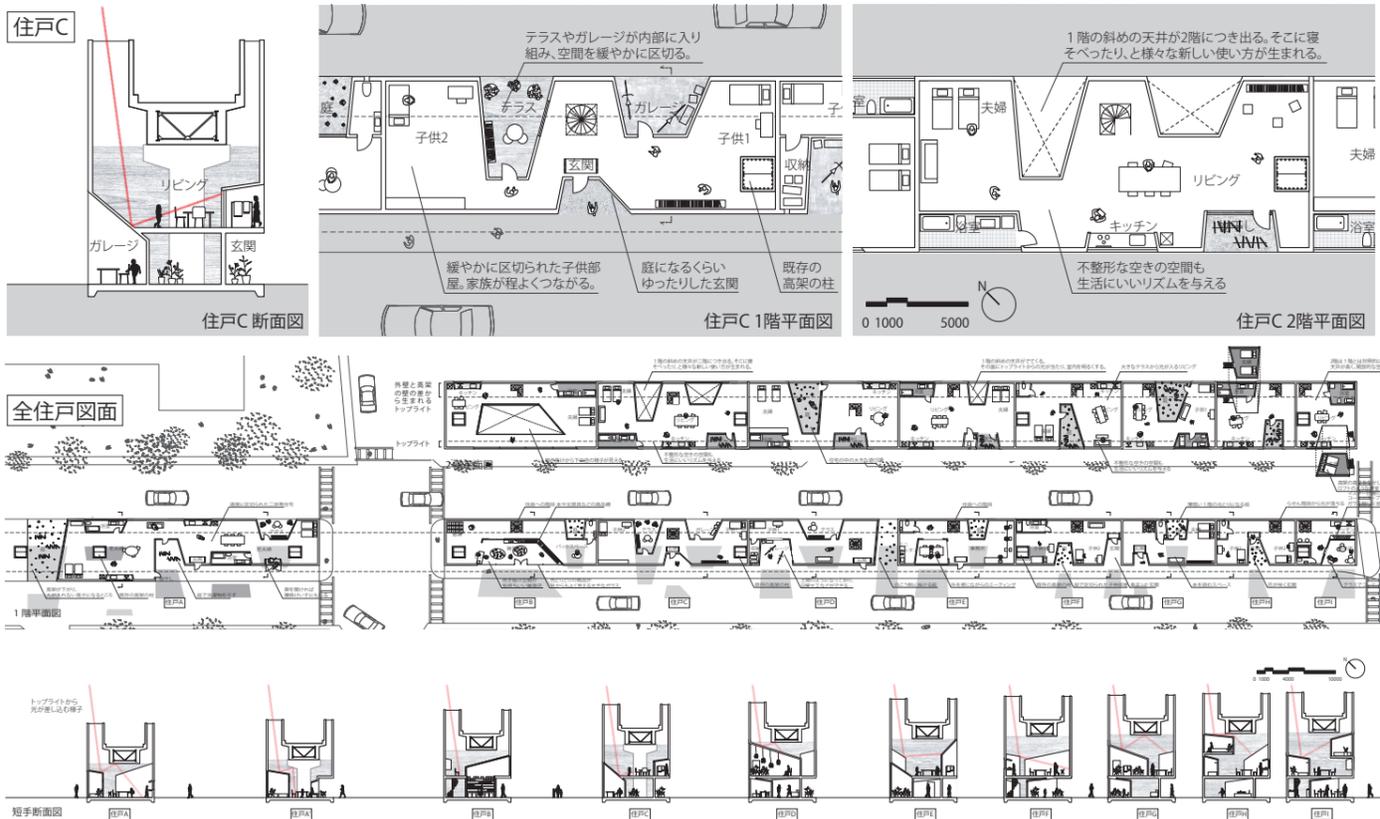
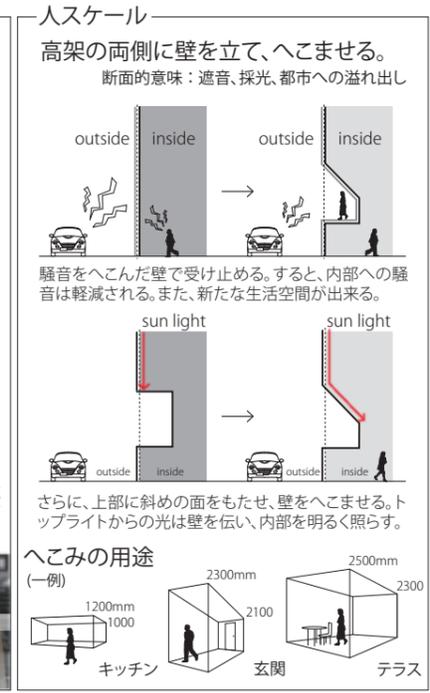
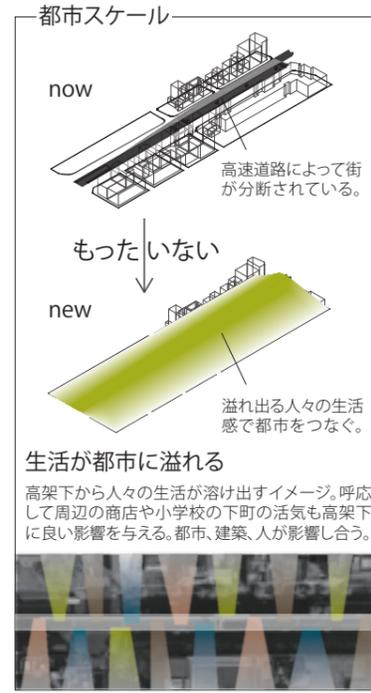


卒業制作
もったいないに住む —高架下の集合住宅—

建築を上へ上へと飛ばす前に、もったいない場所に目をむける。例えば、高速道路の高架下を「暗い、汚い」といったイメージではなく、地面に屋根がかかった場所だと考えてみる。そこには人が住まう原点がある。人が「もったいないに住む」ことで、巨大な都市工作物を人のスケールに丁寧に落としこみ、都市をつなぐ集合住宅を高架下に計画する。

concept

- もったいない高架下に住み、溢れ出る人々の生活感で都市をつなぐ。
- 高架下だからこそ出来る新たな生活空間を提案する。
- 都市/土木スケールから建築/人スケールへ丁寧にスケールを落とししていく。



トップライト
既存の高架と壁との間を利用して設けたトップライトは全住戸にずっと続いている。住民皆で景色や空を共有する。

天高が変わる空間
高架が下がっていくに従って、徐々に天井が低くなる2階。やがて1階と一体化する。トップライトから『へこみ』を伝って光が落ち、明るい居間や寝室となる。

天高が一定の空間
天井高が2500mmで一定の1階は、主に収納や玄関、ガレージなどがある。所々、都市との干渉空間として通り抜けられる場所もある。



長手方向断面模型